

極秘

1868

最近ノ外交關係ニ就テ

（五月十三日樞密院ニ於ケル外務大臣ノ説明資料）  
對支關係

一、御承知ノ通り最近支那國民間ニ於ケル國家意識ノ勃興ハ甚ダ盛ナルモノガアリ、其ノ具體的表現ヲ抗日ノ主張ニ求メテ居ル感ガアルノデアリマス。即チ西南政權（十一年六月）其ノ西安事件（十二月十二日）ニ際シテノ張學良等反蔣ノ旗ヲ擧グル者ハ何レモ抗日ヲ標榜シ、他方南京政府モ此ノ傾向ヲ巧ミニ利用シ對日強行方針ヲ標榜スルコトニ依ツテ着々自己政權ノ基礎ヲ固ムルト共ニ支那統一ノ實績ヲ擧ケテ居ルノデアリマス。一方右國家主義運動ノ勃興及南京政府ノ基礎強化ト共ニ國民政府ノ對日態度モ強硬トナ

外務省

IMT 380

135

0368

1868

コトヲ承認スルニ於テハ惠通公司ヲ南京政府ノ認メタル日支合辦會社ニ改編スルニ異存ナシ

IMT 380

134

0367

REEL No. A-0055

アジア歴史資料センター

リマシテ、現ニ成都事件（八月二十四日發生）ニ關聯スル先般ノ南京交渉（九月八日須摩總領事ト張群トノ間ニ豫備的交渉開始、十二月三日川越大使ヨリ交渉結末覺書ヲ提出、十二月三十日成都事件自体ノ解決ニ關スル公文交換）ニ於テモ南京政府ハ日支國交調整ニ關スル支那側ノ希望トシテ（塘沽及上海停戰協定ノ取消ニ冀東政府ノ解消（北支自由飛行ノ停止（偽密轄ノ停止及支那側取締ノ自由回復（察哈爾東部及綏遠北部ニ於ケル偽軍ノ解散等ヲ要求シテ參ツタ様ナ始末ニテ、王寵惠ノ外交部長就任ト共ニ未タ公ケニ傳ヘラレマセンカ治外法權ノ撤廢問題擡頭シ旁々支那民衆ノ國權回復熱ハ一段ト拍車ヲ加ヘラレタヤウニ見受ケラレルノデアリマス。

外務省

12.2

IMT 380

136

0369

ニ此ノ間ニ處シ從來ニ於ケル我カ對支政策ハ動モスルト支那側ニ無用ノ誤解乃至疑惑ヲ與ヘ、爲ニ支那側ヲ驕リテ親英、聯蘇等ニ走ラシムル虞モナキニ非サリン様ニ見受ケラレマス。他方支那ノ言論界其ノ他一般ニ於テハ依然滿洲又ハ華北ノ失地回復等過激ナル論議ヲナス者多々アルノデアリマスカ、我方ニ於テ得テ居ル情報ニ依レハ國民政府ノ最高當局ト致シマシテハ現實ノ政策トシテ必スシモ此ノ種急激ナル主張ニ支持ヲ與ヘ居ラス又日支國交調整ニ關スル希望ヲ全然拋棄シテ居ルモノトモ認メラレナイノデアリマス。尤モ支那側ノ排日空氣竝ニ支那民衆ニ對スル國民政府從來ノ立場等ノ關係モアリ日支關係打開ニ關スル今後ノ交渉ニハ幾多ノ困難アヤモノト想像セララルノデアリマスカ、右國民政府當局ノ

外務省

12.2

IMT 380

137

0370

意向ニモ鑑ミ政府ト致シマシテハ二面支那トノ間ニ文化的經濟的提携ノ實ヲ舉クルコトニ依リ兩國國民間ノ感情ノ融和ヲ圖ルト共ニ他面比較的容易ナル具體的問題ニ就キ解決ヲ圖リ以テ漸次日支關係ノ全般の調整ニ進ミ行キ度キ考テ、右方針ニ基キ關係省トモ話合ノ結果今般對支方策ノ綱領ヲ策定シタ次第デアリマス

外務省

IMT 380

138

0371

三、右ノ新方策ノ要旨ハ大体次ノ通りデアリマス

(一) 南京政權ニ對スル施策

- (1) 南京政權並ニ同政權ノ指導スル支那統一運動ニ對シテハ公正ナル態度ヲ以テ之ニ臨ムト共ニ支那側カ侮日的態度ヲ採ルニ至ツタ根因ノ除去ニ努メ南京政權ヲシテ漸次容共及歐米依存的政策ヲ拋棄セシムルコト
- (2) 南京政權ヲシテ國民ノ手前抗日標榜ノ已ムナキニ至ラシムルカ如キ措置ヲ避クルト共ニ特ニ支那民衆ヲ對象トスル文化的經濟的工作ニ力ヲ注キ以テ兩國國交ノ調整ニ資スルコト
- (3) 客年南京ニ於テ行ハレタル日支交渉ニ關シテハ同交渉ノ經濟ヲ辿リ且其ノ後ニ於ケル支那政局ノ動向ヲモ考慮ニ入レタル

外務省

IMT 380

139

0372

上成ルヘク速ナル機會ニ左記諸懸案ノ解決ヲ期スルコト

(1) 排日言動ノ取締

(2) 邦人顧問ノ招聘

(3) 上海福岡間航空連絡ノ開始

尙本件交渉ヲ促進セシムル爲ニハ所謂北支自由飛行問題ノ調整ヲ圖ルコトカ先決問題デアリマスカ此ノ點ニ關シマシテハ別ニ具体案ノ決定ヲ見マシタ。

(4) 關稅ノ引下ケ

本件ハ北支密輸特ニ冀東特殊貿易問題ト最モ密接ナル關係アル問題デアリマスカ此ノ點ニ關シマシテモ別ニ具体案ニ付關係省間ニ話合成立致シマシタノテ右方針ニ依リ先ツ特

外務省

殊貿易ノ廢止方支那側ト話ヲ進メ度考デアリマス。

(甲) 不逞野人ノ逮捕引渡

(乙) 上海其ノ他ニ於ケル不祥事件ノ解決

(二) 北支ニ對スル施策

(1) 政治的工作ヲ避ケ經濟資源ノ開發、交通ノ發達、文化的關係ノ向上等ニ專念スルコトトシ差當リ客年來懸案中ノ津石鐵道ノ敷設、龍烟鐵道<sup>續</sup>ノ開發等ニ付準備ヲ進メテ居リマス。

(2) 北支ニ對スル我方ノ施策ハ從來動モスレハ支那竝ニ列國ニ對シ恰モ帝國ニ於テ停戰地域ノ擴張、滿洲國ノ國境推進乃至ハ北支ノ獨立等ノ企圖ヲ有スルカ如キ誤解ヲ與ヘタルコトナキニ非サルヲ以テ今後ハ此種無用ノ誤解ヲ與フルカ如キ行動ハ嚴ニ之ヲ慎ムコト

外務省

(四) 對内蒙施策

内蒙方面ニ對スル工作ニ當リテハ蘇聯邦及支那トノ關係ヲモ考  
 慮ニ容レタル上内面的且平和的ニ之ヲ行フコト  
 追テ外務及陸海軍側ニ於テハ夫々係官ヲ支那及滿洲國方面ニ  
 派シ關係出先ニ對スル新方針ノ徹底ニ付遺憾ナキヲ期シテ居  
 ル次第デアリマス。

要スルニ日支國交建<sup>直</sup>案ヲ目途トシテ、北支問題ノ打開ニ力メ先  
 ツ比較的容易ナル問題ヨリ着手シ支那側ト話合ヒテ初ムル心算テ  
 居リマス但シ交渉開始ハ出先キ軍憲竝ニ外務側ニ中央部ノ意嚮カ  
 充分ニ徹底シタル上ニテ内外相呼應シテ之ニ當ル考ヘテアリマス。

四日支關係打開ニ關スル今後ノ方策トシテ政府ニ於テ考ヘテ居ル所

外務省

(5) 冀東自治政府ノ指導ニ當リテハ同政府ハ結局單獨ニ存立シ得  
 サルモノナル點ヲモ考慮ニ入レ其ノ他ノ北支諸政權指導上ノ  
 障害トナルカ如キ措置ヲ爲ササルト共ニ同地域ヲ安居樂業ノ  
 模範地域タラシムル様努ムルコト

(4) 山東、山西、綏遠等ノ諸政權ニ對スル施策ハ日滿支ノ融通提  
 携ヲ目的トスル文化的經濟的工作ノ漸進的遂行ニ依リ帝國ト  
 ノ連帶關係ヲ一層密接ナラシムルヲ以テ主眼トスルコト

(3) 其ノ他ノ地方政權ニ對スル施策

支那ノ分立ヲ計ル目的ヲ以テ地方政權ヲ援助スルカ如キ政策ハ  
 之ヲ避ケ之等地方の政權ト實質的提携ヲ圖ルコトニ依リ支那全  
 體ニ於ケル綜合的親日傾向ノ醸成ニ努ムルコト

外務省

寫

最近ノ外交關係ニ就テ  
1868

最近ノ外交關係ニ就テ

(五月十三日樞密院ニ於ケル外務大臣ノ説明資料)

對支關係

一、御承知ノ通り最近支那國民間ニ於ケル國家意識ノ勃興ハ甚ダ盛ナルモノガアリ、其ノ具體的表現ヲ抗日ノ主張ニ求メテ居ル感ガアルノデアリマス。即チ西南政權(十一年六月)其ノ西安事件(十二月十二日)ニ際シテノ張學良等反蔣ノ旗ヲ舉グル者ハ何レモ抗日ヲ標榜シ、他方南京政府モ此ノ傾向ヲ巧ミニ利用シ對日強行方針ヲ標榜スルコトニ依ツテ着々自己政權ノ基礎ヲ固ムルト共ニ支那統一ノ實績ヲ擧ケテ居ルノデアリマス。一方右國家主義運動ノ勃興及南京政府ノ基礎強化ト共ニ國民政府ノ對日態度モ強硬トナ

外務省

19.2

IMT 380

145

0378

1868

ハ前ニ述ヘマシタ通テアリマス。カ、現在ノ如キ支那側ノ對日強硬態度ハ支那ニ於ケル國家主義的運動ノ外、我國ノ當面セル全般の國際關係殊ニ支那ヲ中心トスル日本ト列國トノ關係等ニ基因スル點モ尠クナイト考ヘルノデアリマシテ、日支國交調整ノ爲ニハ支那トノ交渉ト併行シテ我カ對列強關係ノ調整特ニ支那ニ最モ深甚ナル利害關係ヲ有スル英國トノ間ニ意思ノ疎通ヲ圖ルコト及日蘇關係ヲ調整スルコトカ極メテ肝要テアルト思考セララルノデアリマシテ、此ノ點ニ關シマシテモ目下之カ準備ニ付遺憾ナキヲ期シテ居ル次第デアリマス。カ日蘇及日英關係打開交渉ニ關シマシテハ、更ニ詳シク申上クルコトト致シマス。

外務省

19.2

IMT 380

144

0377

リマシテ、現ニ成都事件（八月二十四日發生）ニ關聯スル先般ノ南京交渉（九月八日須摩總領事ト張群トノ間ニ豫備的交渉開始、十二月三日川越大使ヨリ交渉結末覺書ヲ提出、十二月三十日成都事件自体ノ解決ニ關スル公文交換）ニ於テモ南京政府ハ日支國交調整ニ關スル支那側ノ希望トシテ（一）塘沽及上海停戰協定ノ取消（二）冀東政府ノ解消（三）北支自由飛行ノ停止（四）密輸ノ停止及支那側取締ノ自由回復（五）察哈爾東部及綏遠北部ニ於ケル偽軍ノ解散等ヲ要求シテ參ツタ様ナ始末ニテ、王寵惠ノ外交部長就任ト共ニ未タ公ケニ傳ヘラレマセンカ治外法權ノ撤廢問題擡頭シ旁々支那民衆ノ國權回復熱ハ一段ト拍車ヲ加ヘラレタヤウニ見受ケラレルノデアリマス。

外務省

12.2

IMT 380

146

0379

ニ此ノ間ニ處シ從來ニ於ケル我カ對支政策ハ動モスルト支那側ニ無用ノ誤解乃至疑惑ヲ與ヘ、爲ニ支那側ヲ驅リテ親英、聯蘇等ニ走ラシムル虞モナキニ非サリシ様ニ見受ケラレマス。他方支那ノ言論界其ノ他一般ニ於テハ依然滿洲又ハ華北ノ失地回復等過激ナル論議ヲナス者多々アルノデアリマスカ、我方ニ於テ得テ居ル情報ニ依レハ國民政府ノ最高當局ト致シマシテハ現實ノ政策トシテ必スシモ此ノ種急激ナル主張ニ支持ヲ與ヘ居ラス又日支國交調整ニ關スル希望ヲ全然拋棄シテ居ルモノトモ認メラレナイノデアリマス。尤モ支那側ノ排日空氣竝ニ支那民衆ニ對スル國民政府從來ノ立場等ノ關係モアリ日支關係打開ニ關スル今後ノ交渉ニハ幾多ノ困難アキモノト想像セララルノデアリマスカ、右國民政府當局ノ

外務省

12.2

IMT 380

147

0380

意向ニモ鑑ミ政府ト致シマシテハニ面支那トノ間ニ文化的經濟的  
 提携ノ實ヲ擧クルコトニ依リ兩國國民間ノ感情ノ融和ヲ圖ルト共  
 ニ他面比較的容易ナル具體的問題ニ就キ解決ヲ圖リ以テ漸次日支  
 關係ノ全般的調整ニ進ミ行キ度キ考テ、右方針ニ基キ關係省トモ  
 話合ノ結果今般對支方策ノ綱領ヲ策定シタ次第テアリマス

外務省

12.2

IMT 380

148

0381

三右ノ新方策ノ要旨ハ大体次ノ通りテアリマス

(一) 南京政權ニ對スル施策

- (1) 南京政權竝ニ同政權ノ指導スル支那統一運動ニ對シテハ公正ナル態度ヲ以テ之ニ臨ムト共ニ支那側ガ侮日的態度ヲ採ルニ至ツタ根因ノ除去ニ努メ南京政權ヲシテ漸次容共及歐米依存的政策ヲ拋棄セシムルコト
- (2) 南京政權ヲシテ國民ノ手前抗日標榜ノ已ムテキニ至ラシムルカ如キ措置ヲ避クルト共ニ特ニ支那民衆ヲ對象トスル文化的經濟的工作ニ力ヲ注キ以テ兩國國交ノ調整ニ資スルコト
- (3) 客年南京ニ於テ行ハレタル日支交渉ニ關シテハ同交渉ノ經濟ヲ辿リ且其ノ後ニ於ケル支那政局ノ動向ヲモ考慮ニ入レタル

外務省

12.2

IMT 380

149

0382



上成ルヘク速ナル機會ニ左記諸懸案ノ解決ヲ期スルコト

(1) 排日言動ノ取締

(2) 邦人顧問ノ招聘

(3) 上海福岡間航空連絡ノ開始

尚本件交渉ヲ促進セシムル爲ニハ所謂北支自由飛行問題ノ調整ヲ圖ルコトカ先決問題デアリマスカ此ノ點ニ關シマシテハ別ニ<sup>一應</sup>具体案ノ決定ヲ見マシタ。

(4) 關稅ノ引下ケ

本件ハ北支密輸特ニ冀東特殊貿易問題ト最モ密接ナル關係アル問題デアリマスカ此ノ點ニ關シマシテモ別ニ具体案ニ付關係省間ニ詰合成立致シマシタノテ右方針ニ依リ先ツ特

外務省

殊貿易ノ廢止方支那側ト話ヲ進メ度考デアリマス。

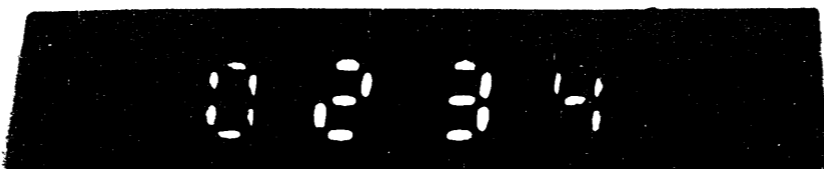
(5) 上海其ノ他ニ於ケル不祥事件ノ解決

(6) 北支ニ對スル施策

(1) 政治的工作ヲ避ケ經濟資源ノ開發、交通ノ發達、文化的關係ノ向上等ニ專念スルコトトシ差當リ客年來懸案中ノ津石鐵道ノ敷設、龍烟鐵道<sup>鐵</sup>ノ開發等ニ付準備ヲ進メテ居リマス。

(2) 北支ニ對スル我方ノ施策ハ從來動モスレハ支那竝ニ列國ニ對シ恰モ帝國ニ於テ停戰地域ノ擴張、滿洲國ノ國境推進乃至ハ北支ノ獨立等ノ企圖ヲ有スルカ如キ誤解ヲ與ヘタルコトナキニ非サルヲ以テ今後ハ此種無用ノ誤解ヲ與フルカ如キ行動ハ嚴ニ之ヲ慎ムコト

外務省



(3) 冀東自治政府ノ指導ニ當リテハ同政府ハ結局單獨ニ存立シ得サルモノナル點ヲモ考慮ニ入レ其ノ他ノ北支諸政權指導上ノ障害トナルカ如キ措置ヲ爲ササルト共ニ同地域ヲ安居樂業ノ模範地域タラシムル様努ムルコト

(4) 山東、山西、綏遠等ノ諸政權ニ對スル施策ハ日滿支ノ融通提携ヲ目的トスル文化的經濟的工作ノ漸進的遂行ニ依リ帝國トノ連帶關係ヲ一層密接ナラシムルヲ以テ主眼トスルコト

(5) 其ノ他ノ地方政權ニ對スル施策

支那ノ分立ヲ計ル目的ヲ以テ地方政權ヲ援助スルカ如キ政策ハ之ヲ避ケ之等地方の政權ト實質的提携ヲ圖ルコトニ依リ支那全般ニ於ケル綜合的親日傾向ノ醸成ニ努ムルコト

外務省

12.2 IMT 380 152 0385

(四) 對内蒙施策

内蒙方面ニ對スル工作ニ當リテハ蘇聯邦及支那トノ關係ヲモ考慮ニ容レタル上内面的且平和的ニ之ヲ行フコト

追テ外務及陸海軍側ニ於テハ夫々係官ヲ支那及滿洲國方面ニ派シ關係出先ニ對スル新方針ノ徹底ニ付遺憾ナキヲ期シテ居ル次第デアリマス。

要スルニ日支國交建案ヲ目途トシテ、北支問題ノ打開ニカメ先ツ比較的容易ナル問題ヨリ着手シ支那側ト話合ヒテ初ムル心算ヲ居リマス但シ交渉開始ハ出先キ軍憲竝ニ外務側ニ中央部ノ意嚮カ充分ニ徹底シタル上ニテ内外相呼應シテ之ニ當ル考ヘテアリマス。

日支關係打開ニ關スル今後ノ方策トシテ政府ニ於テ考ヘテ居ル所

外務省

12.2 IMT 380 153 0386

寫送先

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 人事 文書 會計 秘書官

大臣 次官

電信課長



1868

1868

ハ前ニ述ヘマシタ通テアリマスカ、現在ノ如キ支那側ノ對日強硬態度ハ支那ニ於ケル國家主義的運動ノ外、我國ノ當面セル全般的國際關係殊ニ支那ヲ中心トスル日本ト列國トノ關係等ニ基因スル點モ尠クナイト考ヘルノテアリマシテ、日支國交調整ノ爲ニハ支那トノ交渉ト併行シテ我カ對列強關係ノ調整特ニ支那ニ最モ深甚ナル利害關係ヲ有スル英國トノ間ニ意思ノ疎通ヲ圖ルコト及日蘇關係ヲ調整スルコトカ極メテ肝要テアルト思考セラルルノテアリマシテ、此ノ點ニ關シマシテモ目下之カ準備ニ付遺憾ナキヲ期シテ居ル次第デアリマスカ日蘇及日英關係打開交渉ニ關シマシテハ、更ニ詳シク申上クルコトト致シマス。

外務省

12.2

IMT 380

154

0387

昭和12 八八八一 暗

南京 本省 五月十四日夜着

亞

佐藤外務大臣

第三二二號ノ一(極秘)

本官十三日挨拶ヲ兼ネ汪兆銘ヲ往訪(清水及外交部董科長同席)會談セル處御參考トナルヘキ點左ノ通り

一、本官ヨリ日支ノ關係ニ付率直ニ言ヘハ以前ハ支那側ニ於テ日本カ何處迄押寄セ來ルヤヲ懸念シ居リタルカ最近ハ反對ニ日本側ニ於テ支那カ何處迄反撃シ來ルヤモ測リ難シトノ疑念ヲ抱クニ至リ其ノ調整ハ依然トシテ相當困難ナル様感セラルト述ヘタル處汪ハ自分モ率直ニ述フヘシトテ日支關係ヲ律スル原則ハ(一)兩國相協力シ

外務省

IMT 380

155

0388